

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

6日に引き続き、通告順に発言を許します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

おはようございます。清政クラブの東野でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市駅北復興まちづくり計画の進捗について。

駅北大火より3年の月日がたとうとしています。平成29年8月に策定された当計画では3つの方針が掲げられ、復興まちづくりを推進しています。「災害に強いまち」、「にぎわいのあるまち」、「住み続けられるまち」の、これら3つの方針のもとに計画は遂行されてきました。

現在までの進捗状況と、まちの将来像について伺います。

(1) 平成31年3月に策定された「立地適正化計画」で定める「都市機能誘導区域」、「居住誘導区域」と、糸魚川市駅北復興まちづくり計画との関連性、将来像について伺います。

(2) 平成28年12月22日の大火以後、新たに駅北でまちづくり活動をされる団体と、住民や商店街組織との関連性についてご存じか伺います。

(3) 平成31年2月に開催された「リノベーションスクール」の成果と、その後の経過を伺います。

(4) 糸魚川創成塾2018、2019卒業生の駅北での活躍と、今後の糸魚川創成塾の活動内容について伺います。

(5) 「にぎわいのあるまち」の方針に、「交通結節点としての利便性を生かし」とあるが、それによる交流人口拡大のイメージを伺います。

(6) 糸魚川市は駅北においてどんな「まちづくり」をしていくのか、改めて伺います。

2、糸魚川市におけるICT教育の環境整備について。

近年のグローバル化や急速な情報化の進展により、子供たちを取り巻く環境が大きく変化しています。子供たち一人一人がみずからの可能性を最大限に発揮するためには、主体的に考え、他者と協同しながら新たな価値の創造に挑むとともに、新たな問題の発見・解決に取り組むことが求められています。また、日常生活における営みを、ICTを通じて行うことが当たり前になっている現代社会において、子供たちにはICTを受け身で捉えるのではなく、手段として積極的に活用していくことが求められています。文部科学省では、平成28年7月28日に「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」における議論をもとに取りまとめられた、「教育の情報化加速化プラン」を策定しました。ICT教育における環境整備は、糸魚川市においても重要な課題であると考えます。

(1) 糸魚川市内小中学校において、「電子黒板」や「タブレット」導入の現段階の実績と、今後ICT教育の環境整備の検討を伺います。

(2) 糸魚川市が考えるICT導入におけるメリット・デメリットは、どのようにお考えか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、立地適正化計画は将来の人口減少を見据え、おおむね20年後の都市の姿を展望する中で、糸魚川駅周辺において復興まちづくり計画対象区域を含めて誘導区域を設定いたしております。計画の期間や区域は異なりますが、都市機能の誘導やにぎわいの創出、一定の人口密度の維持など目指す方向性は一致してるものと考えております。

2点目に、駅北ワークスやまちづくりらぼなど、若い方の団体が積極的に活動いただいておりますが、住民や商店街の方々との連携をさらに図っていくことも重要だと考えております。

3点目につきましては、既に事業として実施している方もおられますし、事業化に向けて動いている物件もございます。

4点目につきましては、基礎講座の受講生は2年間で29人となり、うち8人の方が駅北で新規創業済み、または創業準備中であります。今後も創業機運の醸成や創業を支援する活動を展開してまいります。

5点目につきましては、新幹線や高速道路の利便性を生かし、個店の魅力アップ、またイベントの実施などの情報発信により、交流人口の拡大につなげていくことをイメージいたしております。

6点目につきましては、現在、駅北まちづくり会議を設置し、将来にわたってのにぎわいのあるまち、住み続けられるまちに向かって、市民と一緒に駅北のまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上のご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

おはようございます。

東野議員の2番目のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、電子黒板や大型モニターなどは、小中学校合わせて111台、キーボー

ド付きのタブレットパソコンは508台で、約5人に1台整備しております。

また、今年度から学校ICT支援員を配置し、ICT機器の取り扱いや授業のサポートを行っているところであり、さらなる整備を図ってまいります。

2点目につきましては、メリットとしては教科書や資料集よりも見やすく、理解しやすいという点がある反面、整備コストが高いことやICTスキルを持った教職員の育成が課題であります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

よろしく願いいたします。毎度のことなんですけど、ちょっと順番を変えてICT教育の環境整備についてのほうから再質問させていただきたいと思えます。

今、導入台数ですとか詳細に教えていただいたんですけども、新しい学習指導要綱が小学校では2020年度、中学校では2021年度、高等学校では2022年度の入学生から年次進行で実施されます。

一般の総務文教常任委員会の視察では、教育ICT環境整備事業の先進地を視察してまいりましたが、福岡県行橋市においては、小中学校のICT環境の整備に、およそ4年もの月日を要してまいりました。福岡県田川市では、平成28年10月に田川市ICT教育推進本部が設置され、そのメンバーに本部長（教育長）、学識経験者、アドバイザー、民間企業等、保護者、市PTA連合会会長等、学校代表、管理職、教諭、教育委員会によって構成され、推進された実績を伺いました。

糸魚川市においては、環境整備が徐々に進んでいる状況でございますが、この田川市のようなこういった組織をつくって今まで環境整備に当たってこられたのか、内容について少し伺いたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

おはようございます。

お答えいたします。

糸魚川市では、国の動向を受けながら、学校での活用状況、それから予算等の状況等を勘案しながら、各学校で活用が進むように進めてまいっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

先ほど教育長の答弁の中に5人に1台の割合で導入が進んでいるということなんですけども、1人1台に行き渡るような状況になるには、何年後ぐらい、何年後という計画でお考えになっているか、お聞かせいただければと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

I C Tの環境整備に係る地方財源措置等の資料によりまして、2018年には3クラスに1クラス分程度の配置だったものが、こないだの文部科学大臣のコメントによりまして、1人1台のコンピューターの実現等というお話が出てまいりました。現在、児童生徒におきましては、先ほど教育長がお話し申し上げましたとおり508台が配備されております。あと2,700人分のものを加えるということになりますと、契約単価5万5,000円程度を予定しまして、1億5,000万を超える状況にあります。これらについて、はっきりと申し上げることは難しいんですけども、先ほどの文部科学大臣のコメント等を勘案しますと、2024年あたりまでに1人1台の配備が予定されなければならないと今のところ認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

現在2019年で、2024年までにその導入を進めていくと、最初に導入した端末というのが、もう型おくれという状況になろうかと思いますが、その辺のケアというのはどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

コンピューターのソフト面、ハード面につきましては、日進月歩というところがございますので、必ずケアが付きまわってまいります。この辺については、今後の状況を見据えていかなければわからないし、また、近隣の状況等々も勘案の必要があると思います。現在入っている508台については、24年になりますと、もう5年後ということになります。その508台についての契約単価と台数を掛けますと約2,800万円というような形になります。毎年500台ずつと考えると、それぐらいの額が必要になってくるかなというふうに計算はできるわけがございます。現在の状況では、この額のことになるかなと今思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

その導入するに当たって、例えば毎回、新製品が使えるようなリース契約というのは存在しないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

先ほど来、お話をさせていただいております契約の単価については、これは1台当たりのリース、恐らく5年ほどの契約に基づくリースということになってるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

今いただいたご説明で内容はわかりました。あくまでICTの活用は、教育の手段として活用することが求められておりますが、手段とするならば、その教育のコンテンツの選定が重要になってくると考えます。もう既にコンテンツの選定については、いろいろな方からアドバイス、いろいろな業者を交えながらアドバイス等を受けておると思いますが、先進地等の事例も踏まえながら糸魚川市の教育にとって最適なコンテンツを研究し、選定し続けていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

ありがとうございます。プログラミングに関する学習活動の分類としては、A分類からFまでの6点がございませけれども、学習指導要領に例示されている単元の内容については、来年度からきちっとまた実施できるように進めてまいりますし、そのほか議員がおっしゃったように内容を深めていく、内容理解を助けるようなプログラミングの内容についても、また今後研究を進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

こういったICTに関しては、日進月歩でございますので、研究し続けて、最適なコンテンツをご用意していただければというふうに思っております。

それでは、（2）のメリット・デメリットについて、いま一度詳しくお聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

先ほどの教育長答弁のとおりでございますけれども、メリットとしては教科書や資料集等の課題の提示、あるいは画像等を使うような場合の課題の共有等については、ICTを導入することについて、非常に大きなメリットはあると思っております。また、LAN等を用いて、通信等をきちっと行っ

ていくことにより、情報収集等も適切に行われるのではないかとこのように考えております。

デメリットにつきましては、今ほど議員からご質問ありましたような環境整備について、コストはかなり高いなというふうに思っておりますし、また、これまでもコンピューターを使ってきたとはいえ、新たな内容等に向かっていく教員の育成、これになれていくことにはかなり時間を要するのではないかとこのように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

今ほど教員の育成ということで回答いただきましたけども、やはり今、教員の育成については、かなりご苦労されてるんじゃないかなというのが予測されるんですけども、今、現段階で教員の皆さんから挙がってる問題点とか、そういった点があれば、お聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

本年度配置していただいておりますICT支援員が、月2回程度、各学校を訪問しております。そこでは教室でのタブレットの使用の指導、それからネットワーク環境の整備等がございます。そのほか具体的な授業の内容について、どのように使っていったらいいかという相談に乗っていただいております。

これらにつきましては、いわゆる環境整備、それから使用の目的に合わせたプログラム等の、あるいはソフト等の利用ということについては、これはきょうで終わりという状況にはならないと思っております。それぞれ1年間を進みながら前へ対応をしていかなければならない。ずっと1年間ついていく悩みであり、対応であるというふうには考えております。その実践の積み重ねが行われていくことによりまして、また教員のほうもなれていくということでもあります。ICT支援員の役目は、非常に大きいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

こういった状況を踏まえながら、私なりにちょっとこういった問題が出てくるんじゃないかなという点なんですけども、令和元年10月25日に文部科学省により通知された不登校児童生徒への支援のあり方についてを確認すると、不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取り扱いについて、詳細に明記されております。ICT等を活用した学習活動とは、コンピューターやインターネット、遠隔教育システムなどや郵送・ファクスなどを活用して提供される学習活動であることと定義されています。

これらが不登校児童生徒において、ICT導入のメリットになり得るとも考えますが、反面、不

登校児童がふえてしまう要因にならないか危惧しております。糸魚川市としては、どのようにお考えかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

不登校の児童生徒に対する突破口というような言い方で、ICTのシステムが用いられていることについては、こちらでも承知しております。糸魚川市としましては、この方法をすぐに導入するかどうかについては、検討にはまだ入っておりませんが、しかしながら、1つの方法として認識はしております。学校へ向かうことだけを意図しないというような指示等も出ておりましたので、今後また検討していきたいと思いますが、別の方法での支援も力を入れておりますので、それについてもご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私も必ずしもいいメリットだなというふうには感じてはならず、やはり便利になる反面、そういったちょっと危険性があるなというふうには危惧しております。要は学校に行き勉強することというのが一番だと思っておりますし、児童生徒にとって学校に行く目的とは、学生の本分である勉強を学ぶことであつたり、規律正しい集団生活を学ぶことであつたり、さまざまな要素があると思っております。児童生徒にも保護者にも多様な価値観がある中、教育の現場も日々対応していかなければならないと思っておりますので、指導に当たる先生各位にも十分な配慮をお願いしたい、このように考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

ありがとうございます。今ほど議員おっしゃっていただきましたように児童生徒、保護者を含めまして、十分な配慮については、今後も引き続き対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今ほど東野議員のご質問については、やはり不登校になっている児童生徒については、その要因を解消するのがまず先決だというふうに思っております。その上でなかなか解消が難しいということであれば、例えば今、遠隔授業とかそういった形で進めていくのも1つの手ではないかなというふうには、私は考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

また来年度より、働き方改革というのもあって、先生の、例えば部活動ができない状況ができた
り、本当に先生お忙しい中、また環境の変化の中、一生懸命対応していただいておりますので、十
分なケア等をしていただきたい。そのようにご要望を申し上げます。

続きまして、最初の駅北のほうの質問に入らせていただきます。

（1）の立地適正化計画の件でございます。糸魚川市駅北復興まちづくり計画が策定され、現在
までににぎわいのあるまちについて議論がなされ、いよいよ2020年4月より駅北広場の運営が
始まります。長期的な視点でもエリアの価値を上げるための重要な取り組みであると考えます。駅
北地域における高齢化や中心市街地のスポンジ化は、大火以前からある社会問題であると考えられ
ますが、本年3月に策定された立地適正化計画では、快適な住環境の中で若者・子育て世代を初め
とするあらゆる世代が暮らしていますというイメージがされております。

本年第1回定例会の答弁では、立地適正化計画と復興の関係、進めていく時間軸というのは違
うと思っておりますという注釈を置きながら、特に中心市街地というのは、利便性の高い場所にある
にもかかわらず、空洞化・高齢化が進んでいる。じゃあそこに若者・子育て世代が暮らしやすい環
境をつくって、その中で歳をとって、また子供を産んでというようなサイクルができれば、まと
まりのある都市づくりに寄与するということで定めたという答弁をいただいております。もう一方の答
弁では、庁内にプロジェクトチームをつくる提案に対し、建設課からは、今度は実際に計画をつ
くるだけではなくて、それを実効性のあるものにしなければならない。そのためには、誘導施策とい
うものをどんどん立案・設計していかなければならない。そういうことで今、立地適正化計画をつ
くるときに庁内委員会的なものを今、建設課のほうでは、今度それを推進を図る組織に発展させ
ていくという方向性で考えておりますという答弁をいただいておりますことから、ご期待申し上げ
るところですが、本年第1回目の定例会から、およそ9カ月経過した現在、どのような進捗があつた
のかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

庁内委員会をつくりまして、何回か既に二、三回、すみません、ちょっと数、押さえておりませ
んでした、議論を進めております。その中では、まず進め方といたしまして、計画に記載してある
うちの既存の事業で、もう既に動いている事業で少しそれを立地適正化計画の誘導にリニューアル
して使えないか、まず一番ハードルの低い部分から、まずは実現しましょうと。その次に、立地適
正化計画の中にすぐやるではなくて、検討しましょうというふうに記述をしてある誘導施策がご

います。それについて、実現の施策について、実現するための方法について、本当に現実的なデスクワークを進めましょう。そのためのワークということを庁内委員会でやっております。

ただ、それ以外にもいろんな誘導施策を市も独自に打っていかなくちゃいけないものですから、それ以外に書いてあること以外にも、若者・子育て世代の誘導に資する施策がないだろうか、その新たな事業の拾い出しというものをまずやりましょう。それが実現可能性が高い低いというのにかかわらず、まずその拾い出しをやりましょうということで、庁内の委員会のほうでは進めています。ただ、スピード感については、何が何でも幾つの事業を実現するというのではなくて、考え方としては、こういう取り組みというのを確実に途切れることなく続けていくということの大切さということを共有しながら庁内委員会は進めているというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

誘導施策の拾い出しということで、途切れることのないように取り組んでいこうということなんですけど、少しちょっと内容が具体的にお話できる範囲で、どういうことを検討されているか、お聞かせいただけるようであれば、ぜひお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず計画書のほうに今載っていることではありますが、UIターンの方に対する支援というものが、あと空き家のリフォームに対する支援というものがございます。これに関して、例えば市内の居住誘導区域の人口密度を高めることに資するのであれば、例えば市内から市内への移動、これはUIターンではないですが、制度としては似とるような制度というのもございます。そういうことが少し活用できないかですとか、あとこれは私どものほうに少しかかわっておるんですけど、誘導区域内で住居系の区画整理をする場合に、その中に良好な公共的施設インフラ、例えば道路みたいなのがつくられるとすると、今までは開発者の責任で全てやっていたものを糸魚川市道をつくっていただけるといふことであれば、そういうことに対する支援はできないものだろうかとか、ちょっとまだ具体的に制度というのは固まっていないんですが、まだまだございます。例えば複数の企業、単体の企業ですと厳しい、社員寮といいますか、若い人たちが住む社員寮を複数の企業が共同でつくるのであれば、そういうことに対しては何らかの支援ができないだろうかとか、そういうことを庁内の中で、コストも含めて実現可能性ということで練っておるというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

補足してご説明いたします。

創業支援事業におきましても、通常の場合ですと事業所の新築ですとか改築の2分の1で上限100万を通しておるところですけども、この都市機能誘導区域内に事業所を設置する場合には、補助率を3分の2とかさ上げをしまして誘導を図っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。今ほどお話ありました複数の企業に対する支援策、これ本当に実現すればすごいなというふうに思うんですけども、まず、大前提なんですけども、居住誘導区域に住まわれる方々、空き家を所有されている方々は、そもそもの若者・子育て世代が暮らしやすい環境をという市が持つイメージを共有できてる、この事実を共有できてるか、お伺いしたいと思いますが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

立地適正化計画の策定に当たりまして、能生、糸魚川、青海地域でそれぞれ2回ずつ説明会というものをやらせていただいたり、それぞれ関連する業界にかなり丁寧に説明をしてきたつもりでございます。

ただ、やはり市民の中には、この立地適正化計画は中山間地の切り捨てではないのかという印象を、説明会に来ていただいた方には一生懸命私どもはアピールさせていただきましたが、来ている方というのは市民の中のほんの一握りだとしますと、例えば立地適正化計画をつくる段のパブリックコメントに関しても余り反応も少ないというような状況でございますので、東野議員おっしゃるように、空き家を持っている方にそういう認識があるかということ、まだ私どものほうではいろいろこれらの立地適正化計画についてのPR、アピール、説明というものをこれも継続していかなければいけないんだろうなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

継続してアピールのほう、お願いしたいと思います。

立地適正化計画では、おおむね20年後を目指して住宅や都市機能を緩やかに誘導するとありますが、即効性がない分、緩やかに誘導するやり方では、地域コミュニティの崩壊に追いつかないのではないかと懸念しますが、糸魚川市はどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

おっしゃるとおりでございます。ただ、その地域のコミュニティ、これは町なかでも中山間地でも変わりません。そこを守る取り組みということは、当然、立地適正化計画の時間軸はどうしても長い時間を見てしまいますので、立地適正化計画にかかわらず、そういうコミュニティを守る取り組みということは、行政としてはやっていかなきゃいけないことですし、立地適正化計画のこれらの誘導ということ、今の現状で市が強制的にという言い方は余りできないんですけど、やはり市としては、居住誘導区域の中への居住を選んでいただけるような磨き上げということが大事なんじゃないかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

立地適正化計画を見ると、駅を中心に半径800メートル以内に用途地域の約60%の空き家が集中しているとありました。

しかし、その空き家のほとんどが賃貸ではなく、売買を希望する売り手のご都合があるかと思えます。いえかつ糸魚川で登録されている空き家を若い世代が買いたいという要望、その要望と空き家関係補助事業を用いた成約が今までどれだけあったか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

件数につきましては、すみません、ちょっと詳細なデータは持っておりませんが、やっぱり20件ぐらい成約というのがあるというふうに思っています。今やっぱり市で空き家の政策の活用というのは、よそから来た方が主にやってる部分があるんですね。これから空き家の問題というのは65歳以上の方の人口ですとか高齢化が相まって、非常に重要な問題だと思いますので、そこら辺はもうちょっと全庁的な窓口を考えながら、政策的な取り組みが必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

現在までに20件、その数字を聞くと効果があったなというふうに捉えられるんですけども、新たなまた取り組みも窓口も設けて考えていかなければいけないということは、また新たな手を打っ

ていかなきゃいけないということだと思いますんで、1つ提案なんでございますが、居住誘導施策の中に空き家のリフォーム、取得に対する支援とありますが、本来、販売したい物件を若い世代限定で賃貸契約で成約させるための支援を検討できないか、伺います。

ここで言う支援とは、賃貸による物件の管理や修繕に対するものです。抜本的な空き家問題に対する解決にはならないかもしれませんが、居住を誘導するには、若い世代に対して選択肢が多くなければならないと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今、議員からのご提案で、取得は厳しいけど賃貸というやり方もあると思うんですね。やっぱり世代的にも一旦、例えば子供ができるまでの間、アパートでなくてちょっと広いところが欲しいとかというニーズもあると思いますので、そういったところも含めて、これから発生する空き家の対策というのは考えていかなきゃいけないと思います。いろんなやり方があるんだろうなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

駅を中心に半径800メートル以内の借家に住むある若い世代のご夫婦に伺うと、我が地区もそれに該当するんですけども、そういった若い夫婦に伺うと、まず賃料が安い、駐車場がある、学校も駅も近く、立地がよい、何よりアパートより広く、小さい子供がいてもご近所に気兼ねなく使えるというお話をいただきました。誘導する地域に、そこを選択するのに大きなポイントであると考えます。そして、実際、いえかつ糸魚川で売りに出ている物件を借りることはできないかという問い合わせを私自身いただき、残念ながら売買以外では承れないという事例もございました。

本年第1回の定例会の私の一般質問の中でも申し上げましたとおり、空き家問題は費用負担する人と、その便益を受ける人が異なるということに大きな問題があると考えています。賃貸できる状況にするために費用はかけられない。手放したい人にとっては、当然の理由であると思います。賃貸で住みたいという人があらわれるならば、細かい条件設定が必須となるとと思いますが、駅北広場や今後検討されていく核施設によってエリアの価値が上がれば、仮にも住んでいることによって永住の可能性にも近づくと考えます。不動産に関するプロの見解も踏まえながら、空き家の契約形態の項目に賃貸について要相談という項目、選択肢があることで違う結果にも導けると考えます。ぜひ賃貸契約に対する支援を検討いただきたい、このように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

賃貸につきましては、移住者というかU I ターンの方の家賃補助というような形で、アパートの

ほうを借りた場合の部分もあるんですけども、やっぱりいえかつ糸魚川にご登録されているのは、どうしても売買したいという方が多いのかなと思うんですね。なかなか貸してくれというのは厳しいのかなと思いますので、またそういった条件も、いえかつ糸魚川のほうと相談をしながら、空き家を持つての方のニーズを酌み取るような方策も考えていかなきゃいけないというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。本当にもう最終的に空き家を手放したいというのが持ち主のご都合であろうと思いますが、やはり若い世代を誘導したいのであれば、そういった選択肢、ぜひふやしていただきたいなというふうに思っております。

続きまして、2つ目の質問、まちづくり活動をされている団体と商店街との関連性について、再度質問させていただきたいと思っております。

それぞれ駅北においてご活躍されていますが、お互いの活動の様子や内容を知っていてもお互いの存在がよくわからないという状況があるかと思っております。現在のにぎわいの拠点となる第三セクターのヒスイ王国館とのつながりも、お互いの役割を理解し、これからは協調の上、共存していかなければならないと考えます。駅北広場が完成したならば、広場を介して交流の機会を設ける必要があると考えます。広域商店街と糸魚川駅北復興まちづくり調査特別委員会との意見交換会で出た意見を抽出すると、軒を連ねる商店街として店子の立場で商店街に加入していただきたい旨の要望がありました。もちろん指定管理者の活動を阻害するものではなく、同じ仲間としてやっていきたいというあらわれだと考えます。こちらのほうに関しては、すぐに返答してほしいとは申し上げませんが、どのようにお考えか伺いたいと思っております。今後、指定管理者となり得る方との協議が必要と考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

おはようございます。

今ほどのご質問にお答えしたいと思います。

確かにさまざまな活動、今もう既に新しくなった皆さん活動もされております。お互いの、何と申しますか活動が見えづらいと、そういったような事情もあるなというふうにも感じております。まさに広場を介しての交流、そういったものが必要になってきているだろうというふうにも感じております。その中で、今度、指定管理者に商店街の加入というお話ですが、この辺はまた、我々も指定管理者の方々ともいろいろお話をしながら、お互いにとって有効になるような形、そういった形で考えていきたいなと、そういったあたりの、またサポートをしていきたいなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

来年の4月、駅北広場ができ上がるのを大変商店街も楽しみにしておりますので、ぜひそれをつなぎ合わせる接着剤のような役割を果たしていただく場所になろうかと思っておりますので、よろしくお願いいしいしたいと思います。

続きまして、3つ目のリノベーションスクールの成果とその後の経過についてでございますが、再質問させていただきたいと思っております。

2020年2月14日から16日の3日間、リノベーションスクールがまた、2回目でしょうか、開催されますが、スクール生徒募集の段階から、あらかじめ対象物件を公開できないか、伺います。

なお、そのようなお問い合わせがないか、伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

ご提案ありがとうございます。そのようなお話も、要は募集の前にとということではありますが、案件の選定は、割と早目に私どものほうでも受託者のほうと相談しながら決めておるんですけど、やはりプログラムの進め方として、参加者にはやはりそのプログラムが始まったときに教える中で、スクールを進めるといった形で、そういったスクールのほうを運営しているというところもありますので、事前に通知するメリットもあるのですが、やはりちょっとそういった部分では、何と申しますかスクール運営といいますか、皆さんに企画を考えたうえでのちょっと事前のアイデアみたいなものになると、スクール自体にちょっと中身がだんだん出てこなくなるといったことも心配されますので、この辺は受託者のほうとまた相談しながらですが、ことしの分については、案件、事前に公表ということは考えておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

この物件を公開することによって、このプログラムの進めることにちょっと弊害があるんじゃないかというそういう懸念、そういう回答だったかと思うんですけども、やはりこの物件であればやってみたいという受講生もいらっしゃるんじゃないかなというふうに思いがございまして、質問させていただきました。といいますのも受講された生徒さんの中から、そうしたほうがいいんじゃないかという実際ご提案もいただいた背景もございまして、このような質問をさせていただきました。ぜひ次回、もし受託者と検討が進むようであれば進めていただきたい、そのように思います。

続きまして、4番目の創成塾の実績について、いま一度、お聞かせいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

創成塾につきましては、平成30年度から行っております。昨年度からでございます。今現在、最初の市長答弁にもありましたように、2年間で29人の方が基礎講座を受講されております。そのうち8人の方が、駅北のエリアで新規創業をされたか、または今、創業の準備中ということでございます。

基礎講座につきましては、創業に必要な4つの知識であります経営、財務、人材育成、販路開拓といった基本的なものを習得しまして、創業しやすい環境、また、創業しても長く事業を進められていくような知識を習得して創業していただきたいということで行っているものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

今まで29人基礎講座を受講されたということで、8人の方が創業、そしてその準備にかかっているということなんですけども、残りの21人の状況、知る範囲で結構なんで、長期的に考えているとか、そういった情報があれば教えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

残りの方の状況ということでございますけども、中には今、事業をされていて、その勉強のために受けられた方もいらっしゃるし、また、駅北以外で創業を考えている方もいらっしゃいますし、そのような形でさまざまな方がいらっしゃいまして、今のところ駅北で創業をした者、また準備をしている方を合わせて、今のところ8人ということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。この糸魚川創成塾において、私の同級生が2名起業されました。忘年会の予約もたくさんいただいているようで、大変うれしく思っています。

都市機能誘導区域内において20年間で70件の創業支援が目標とされておりますが、今後は継続していくための支援も視野に入れ、商工会議所と連携を図っていかれると思いますが、どのようにお考えか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり創業支援につきましては、継続的なフォローが必要だというふうに考えており

ます。市並びに商工団体、金融機関で、平成27年に糸魚川創業支援ネットワークというものを組織しております。この中におきまして、前段お話し申し上げました4つの基礎的なものの講座ですか、あと創業後におきましてもアフターフォローする中で、せっかく創業していただくわけですから、本人も周りの人もよくなるような事業を進めていただきたいということで、継続した支援を行ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私も商売させていただく中で、継続していくために外部からのアドバイスや経営革新の必要性などを勉強させていただいております。起業された方々も半端な覚悟で起業されていないと思っております。結局はご本人の努力であります。創業の次は糸魚川で商売を始めてよかったと思えるようなケアも追及していただきたい、このように思っております。よろしくお願いいたします。

続きまして、交通結節点としての利便性を生かしという再質問にさせていただきます。

にぎわいのトライアングルに外からの流入を見込むには、海望施設の仕掛けが重要になってくると考えます。平成30年5月改定の計画では検討とありますが、平成31年度には実施計画の計画をされていたかと思えます。現段階で具体的な取り組みはお考えか、伺いたいと思えます。

海を活用したまちづくりに期待がかかっておりますが、令和3年3月に新設予定の押上駅と連動した海の活用が糸魚川の観光のポイントになり得ると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

新幹線駅から海までが近いもので、そういう海望施設、今もあるんですけども、あそこにおいでになる方がかなりいらっしゃいます。新たな海望施設につきましては、復興まちづくり計画の中で検討はしておりますが、今のところ周辺の施設整備との関連性を含めて、今引き続き検討をしているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

検討は続いているということですが、本当お話しできる範囲でどんなものが、どういうものがという、そういう妄想の範囲で結構なんで、教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に昨今の施設というのは、非常にかなり大規模であったり、やっぱりインパクトのあるものが必要になってまいっております。そういう中で面積だとか規制というところが、非常に1つの壁といいましょうか課題になっておる部分がございます。それをどうやって乗り越えていくのか、非常にそれが課題として今大きくございます。やはり海を眺めたり、海に触れていく部分、どちらかになるわけでありますが、やはり非常に難しい部分があります。ただ単に海に触れ出ていくだけではなくて、やはり日本海の海というのは、これから冬期間、特に風浪被害が発生するわけでありませう。その防災まで考えていくとなると、非常に大変な工事量になるのではないかなといったところ、非常にある程度の考え方はできても、それに進んでいるときには非常に課題が、大きな課題が出てくるというのが今の現状でございます。ですから、展望か、海にどう触れていくのかというところが、考えられるところで進めてまいっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

あえて妄想という言い方をさせていただいたのは、やはり今現在、復興のまちづくりを進めているわけですが、なかなかまちづくり全体の全容が見えてこないという市民の声が多いものでして、やっぱり夢とか希望を持ってまちづくりを進めていくのと、そういう妄想があるのと、全く見えてこない計画、考え方ですと、やっぱり夢や希望が持てないのかなというふうに感じましたもので、そういう表現の仕方をさせていただきました。

最後、糸魚川市は駅北においてどんなまちづくりをしていくのか、改めて再質問させていただきたいんですが、市長のお立場からすると駅北だけがまちづくりではないと考えられると思いますが、これから人口減に拍車がかかることから、将来的にも税収は減る一方、新しい公共施設のスタイルを目指し、大きく手を加えるなら、糸魚川市にとっても最終局面に来ていると考えます。大きく手を加えるといっても無駄な公共投資にならぬよう、地域と十分な対話が必要であると考えます。実践会議、推進会議がその象徴であると思います。

このことから、安定的に展開していく復興展開期に入らなければ、糸魚川市の目指すまちづくりが広く市民の皆様に見えてこないのが現実であると考えます。復興の第二段階に入るに当たり、駅北広場の運営が始まることによって解消されていくとは思いますが、現時点においても行政の目指す方向性が見えないというコメントも多くいただいております。時間をかけてやらなければならない施策、早い展開で手を打たなければならない施策、特に空き家・空き店舗に関して潜在的なニーズは、とにかく失敗を恐れずにやってみないとわからない部分もあると考えます。少しのチャンスも逃さない備えが必要であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

駅北大火の復旧・復興につきましては、復旧がある程度1つの峠を越え、これからやはり復興の

ほうに入っていく期間に入っていくと思っております。そういう中で、やはり今ご指摘のとおり、魅力をどうつくっていくのかというところが一つの私は大きなところだろうと思っております、今ほどの前段でもお答えさせていただいたように、行政がやれるもの、そして民間がやれるもの、住民がやれるもの、そういったものをやはりどうすり合わせていくかというところが一番大事だと思っております。非常に限られた面積の中で、そして住んでいる人たち、そこで企業を営んでる人たちも含みながらやっていく一つの流れというのはどうあるべきか、それがやはり一番の新たな真っ白なところでやるより以上に大きな、いる人たちとのネットワークで連携をとっていくことが必要だろうと思っております。

行政は、やはり今回の大火では、少しリーダーシップをとらせていただきました。しかし、まちづくりは行政だけではいけないわけであります。今そのようなことで、これからスタートしていくには、それなりの熟度が大事だろうと思うわけでありますので、その熟度をどう図っていくかというところが一つの私は課題だろうと思っております。今そこに時間をかけさせていただいた部分がございます。その中にやはり復興広場というのは、大きな力になってくれるだろうと思っておりますし、その経営をしていただくことも大きな仕事であるわけがございますが、まちづくりの熟度を高める一つのリーダーになってもらいたいと思っております。これがうまくいくと、合併いたしました旧能生町であったり、旧青海町の中心市街地においても同じことが、進めていけることになっていくのではないかなと思っておりますので、その辺にひとつモデル的にしてもらいたい、またそういった形になっていただきたいということで、これから方向性に入っていくと私は考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

まちづくりといいますと、なかなか形の見えない、本当難しい問題だなと思っております。大火が発生してから3年がたとうとしておりますが、何度も何度も対話を繰り返されてきていると思います。これからも本当に終わりのないまちづくりが続いていくと思いますが、市長におかれましては、社会関係資本を育む意味でも対話はずっと繰り返しながら活動を続けていただきたい、そのように要望を申し上げて、私の一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

次に、松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。〔18番 松尾徹郎君登壇〕